

入門シリーズ  
開講

入門シリーズ開講のお知らせ!

ころの友伝道の活動をできるだけ多くの方に知っていただきたい、そして、是非この祝福に満ちた活動に加わっていただきたい、その心からの願いをもって、本講座を企画しました。ころの友伝道の長い歴史や活動内容、その特色、そして支部や本部編集会議の実態、会計の苦労話まで、2年近くかけて適任の方に書いていただく予定です。ご期待下さい。

講座 I ころの友伝道の歴史①

スタンレー・ジョーンズ来日から  
全国連合会発足まで



日本基督教団 東京新生教会 協力牧師

横山義孝

2003年ころの友伝道連合会・会長となる  
現在、ころの友伝道連合会・顧問

「ころの友伝道」の発足は、1951年(昭和26)に日本にスタンレー・ジョーンズがH・マコンネル師を同行者として来日し、第1回日本基督教協議会(以下NCC)に訪問伝道全国協議会が成立したことに始まります(委員長・石川四郎)。

S・ジョーンズ師は米国メソジスト派の宣教師でインドの伝道のために生涯を献げた方ですが、1945年、日本が世界大戦で敗れ社会的、精神的に混迷疲弊に陥っていた時、イエス・キリストの福音によって日本人の魂を救いに導きたいと、2年ごとに10回にわたってNCCを通して来日、北海道から沖縄まで縦断伝道を敢行し、日本のキリスト教会また一般民衆に多くのインパクトを与えたのです。

1953年、NCC宣教百年伝道委員会が訪問伝道委員会を創設(委員長・吉田隆

吉)。1954年、訪問伝道第1回全国講習会開催(東山荘)その後19回まで天城山荘等で開催、最低140名、最高300名出席。1959年には日本基督教団から「訪問伝道の手びき」(1万部)が発行され、その後NCCから改定「手びき」が刊行された。

私がスタンレー・ジョーンズ師のメッセージを最初に聞いたのは神戸栄光教会においてでした。彼のメッセージの中心はヨハネ福音1章14節の「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」にあります。彼は1907年23歳で宣教師としてインドに派遣され、社会的、精神的に疲弊したインドの民衆をイエス・キリストの福音によって救おうと臨んだのですが、『8年間の精魂を込めた宣教活動に彼自身の精神と肉体が破壊され、どこからか助けが来なければ伝道者と

(4頁に続きます)